

# 自分のイメージを広げながら、創り出す喜びを味わう児童の育成

～病弱児の図画工作科において、材料や友達に自ら関わることができる学習環境づくりを通して～

特別研修員 特別支援 瀧澤 千明（特別支援学校教諭）

## <病弱特別支援学校の児童の実態>

- 取り扱える教材や活動に制限がある。→実際の材料に触れる、実際に経験したことを題材にする機会が少ない。
- 他児童と一緒に活動する機会が少ない。→関わりの中から発想を広げることが少ない。

## <教師の願い>

- 材料や用具を自ら試しながらイメージを広げ、創り出す喜びを味わってほしい。
- 互いの活動の様子を見たり、作品を交流したりする中で、イメージを広げ、創り出す喜びを味わってほしい。

実践例：小学部第5・6学年 題材名「レインボーランドの仲間たち」

### 手立て1

#### 材料や道具に存分に関われる 学習環境づくり

- 安全、且つ魅力的な材料の設定



この粘土柔らかくて  
気持ちいいなあ…

白くてツヤツヤ…お米？  
そうだ、おにぎりっぽい  
生き物を創ろう！

- すぐに、自由に手に取ることができる  
材料や道具の配置



腕には綿棒  
が使えるな

竹串で  
旗を立てて  
みよう！



見たこともない  
生き物ができた  
よ！  
名前は、  
宮本おにぎり！



出会う

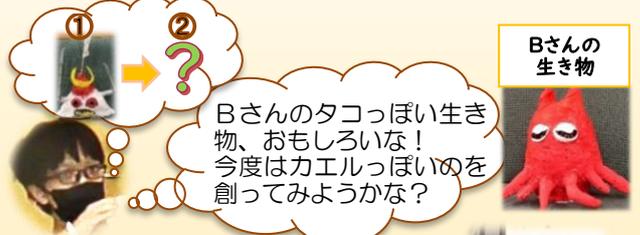
つくる

振り返る

### 手立て2

#### 児童同士が関わり合える 学習環境づくり

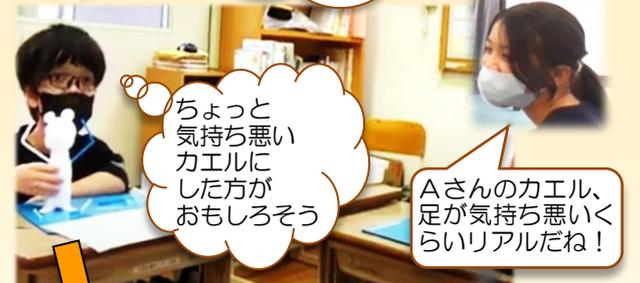
- 児童同士で制作の様子を見合える  
話しかけられる座席配置  
(病室もオンラインでつなぐ)



Bさんの  
生き物



Bさんのタコっぽい生き  
物、おもしろいな！  
今度はカエルっぽいのを  
創ってみようかな？



ちょっと  
気持ち悪い  
カエルに  
した方が  
おもしろそう

Aさんのカエル、  
足が気持ち悪いく  
らいリアルだね！



Bさんのタコと仲間にな  
れそうなおもしろい生き  
物ができたぞ！  
長い舌でエサをとる生き  
物だよ！

材料やBさんの作品からイメージが広がって、創りながらどんどん作品を変えていくのが楽しかった！自分だけの、オリジナルの作品に仕上がって大満足だよ！

## 成果

- 材料や道具を自ら試し、創りたいもののイメージを広げながら、夢中になって制作に取り組むことができた。
- 互いの創り方・使っている材料や道具・作品を見ることや、互いの作品の印象を伝え合うことを通して、イメージを広げながら作品に変化を加えることができた。

## 課題

- 互いの創作活動の様子を見合う姿は多く見られたが、自発的な対話はあまり引き出せなかった。対話を通したイメージの広がりをもっと多く引き出すためには、学び合いを含めたためあてを提示するとよいと考える。